

(自治体 Wi-Fi を活用した取組の紹介－1)

**ニセコエリア総合観光情報発信事業
(ニセコ町)**

〔事業概要〕

課題と導入の背景

ニセコエリアはスキー場の数が多く、全山共通のリフト券で全てのスキー場を利用できることが大きな魅力となっています。そのため、各スキー場のゲレンデ入口をつなぐシャトルバスを運行していますが、天候の影響によってバスが時間通りに運行できないことも多く、スキー客を待たせてしまうこともありました。

「スキー場の状況やシャトルバスの運行情報をリアルタイムかつ、複数の言語で配信することができれば、あらゆるスキー客が、リフトの停止しているスキー場を避けて、ムダな移動や待ち時間なく、目当てのスキー場で存分にスキーを楽しむことができます。ニセコ町にはスキーヤーの安全を守るために独自に定めた『ニセコルール』というものもありますが、雪崩の危険性など、そのルールを守るために必要な情報の周知を徹底することで事故のリスクを低減することもできます。

そこで、ニセコ観光圏が構想したのが、フリー Wi-Fi とデジタルサイネージの設置を柱とする「ニセコエリア総合観光情報発信事業」です。

これは、駅や観光地、各地の交流施設、観光案内所など、エリア内の主要なポイントに大型のデジタルサイネージと Wi-Fi アクセスポイントを設置。サイネージを通じて、スキー場の天候やリフトの運行状況をはじめ、シャトルバスの現在位置、おすすめ観光スポットやイベント情報などの様々なコンテンツを発信すると同時に、誰でも利用可能なフリー Wi-Fi サービスも合わせて提供する仕組みです。デジタルサイネージに表示するコンテンツは、日本語と英語を交互に表示します。特に Wi-Fi サービスに関しては、ホテル以外の外出先でもインターネットアクセスを行いたいという外国人観光客からの根強い要望もあり、長年実現したいと考えていました。

Cisco 事例 URL

http://www.cisco.com/c/ja_jp/solutions/enterprise-networks/case-studies/1201-niseko-tourism-zone.html

① サービスイメージやシステム構成

ニセコエリア総合観光情報発信事業



② 事業展開による効果・成果

現在、Wi-Fiアクセスポイントは、スキー場やホテル、観光案内所など、合計23カ所に設置されています。観光客が利用できるフリー Wi-Fiサービスは全部で3種類あります。Facebook Wi-Fi認証で利用するSSID、Google認証で利用するSSID、ワンクリックで認証なしで利用できるSSIDの中から自由に選んでWi-Fiサービスを利用できます。

加えて、電波干渉を自動的に回避し、通信状態を最適化するという機能を備えているうえ、アプ

リケーションごとのQoS制御が可能なことなどから、通信の品質は非常に良好です。最近は動画を閲覧する利用者が多く、既存回線にWi-Fiアクセスポイントを接続している拠点では、他のサービスに影響を与える可能性もあります。そのため、動画アプリケーションだけトラフィックの上限を定めるという運用を行っています。

以前は『公衆Wi-Fiはつながらないし遅い』という印象を持っていたのですが、そうした思い込みは覆りました。実は道の駅『ニセコビュープラザ』には以前もフリー Wi-Fiを設置していたのですが電波が弱いと不評でした。一方、Merakiによるサービスを開始してからは隅々まで電波が届くようになっていきます。

③ 事業展開のポイント

効果的なICT利活用

観光圏の魅力をより高めるため、Cisco Meraki MR アクセスポイントを活用したフリー Wi-Fi サービスを提供し駅や観光案内所などに設置したデジタルサイネージに、バスの現在位置、リフトの運行状況などを日英で表示し、海外からの旅行客に向けた情報配信を実現させた最新の事例)

横展開・波及効果

今回のニセコ観光圏の取り組みに対する注目度は高く、すでに北海道の他町への導入プロジェクトも開始されています。もちろん、ニセコ観光圏自身も、さらなるICT活用を目指します。将来は新千歳空港や空港バスの中でも、ニセコ観光圏の情報を発信できる仕組みを構築したいと考えております。

住民等との連携・協力

農業と観光が主産業のエリアであり、観光事業の動向に住民の関心は高い。経済循環を高めるためには、来訪者に地域内の小さな情報を知ってもらうことが重要であり、本システムは地域事業者等からの情報提供(参画)に効果を発揮します。また、来訪者が考えるニセコエリアは3町にまたがっており、行政区を超えた情報提供手法として運用している。

【今後の課題と展開】

今後は、単にフリー Wi-Fi サービスを提供するだけでなく、Cisco Merakiを通じて得られる情報を有効活用していくことを視野に入れています。Merakiダッシュボードでは、電波の状態やアクセスポイントの稼働状況、トラフィックだけでなく、端末のMACアドレス検出による利用者の滞在時間や移動状況、近くを通過したモバイル端末の数、アプリケーションごとのトラフィックまでを可視化することが可能です。Facebook Wi-Fi認証を利用した場合には、利用者が公開している属性情報(年齢層、性別、お住まいの地域など)も取得することができます。

この情報を活用すれば、どの国から来た人が、どのようなエリア内を移動したりしているかがわかります。それを活かして、デジタルサイネージのコンテンツを最適化したり、地域企業の店舗出店などの参考にしたりすることも可能になると考えています。

〔導入費・維持費〕

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（内閣府）を活用

〔問い合わせ先〕

- ・ シスコシステムズ合同会社

住所：〒107-0227東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウンタワー

担当者 氏名：小野 裕一

- ・ 電話番号：080-4156-7277

- ・ e-mail：yuono@cisco.com